

# 2019年度事業報告

学校法人いづな学園

## I.法人事務局事業報告

### 1. 2019年度の概要

本年度は、幼稚園が4月から施設型へ移行したため、園児数を確保することによる安定的な収入源の確保に繋がった反面、幼稚園職員への処遇改善を行う義務が生じたため及び幼稚園児の安全支援が必要となったため人件費が増加した。

また、労働基準監督署の指導により一年間の変形労働時間制度を取り入れ、時間外労働の削減を実施し働き方改革に繋がった。

数年来の課題である生徒数の確保については、自然の中での体験教育の具現化が功を奏し、グリーン・ヒルズ小学校の受験者数と入学者数の増加に繋がった。

### 2. 事業報告

1) 学園事業として、「第2回グリーン・ヒルズ親子自然体験教室」を7月13日(土)14日(日)に開催した。

今年度は、昨年度に続き2回目の開催で、親子10組21名、昨年度参加の高校生4名が参加して土の中にいる生物の採取・観察・同定の手法などについて学んだ。本教室の開室によって教職員の自然を見る視点、自然の中での子ども達への気付き、学習内容をまとめて発表するための指導など、教員としての質の向上が図られた。

2) 施設整備について以下のとおり行いました。

①子育て支援の向上にむけて、「こどもの森子育て館 野愛」を建設整備した。

②10月の台風で園庭・校庭・学校林に倒木・枝折れが発生したため、以下のとおり整備した。

・幼稚園:保護者と職員によって除伐整備を行い、同時に薪づくりも行った。

・学校および学校林:長野県の森林税を利用した「学校林活用促進事業補助金」により約100万円の補助を受けて伐採整備し、児童生徒の林業体験活動も行った。

3) 設備整備について以下のとおり行いました。

①幼稚園のワンボックスを日産ハイエースに入れ替えた。

②AEDが使用期限切れとなったため更新した。(幼稚園、グリーン・ヒルズ各1台)

③グリーン・ヒルズの除雪及び幼稚園の園庭整備のためホイールローダーを配置した。

### 3. 次年度への検討課題

人件費及び施設設備の整備等により、学園の財政が圧迫されているため、寄附金の募集を検討したい。また、今年度見送ったグリーン・ヒルズ小学校校舎の屋根工事(漏水)は、児童生徒の健康と安全を確保するためにも、2020年度実施の準備を進めた。

## II.こどもの森幼稚園事業報告

### 1. 概要

本年度、本園は4月から施設型幼稚園へ移行し、また10月からは国策として幼児教育の無償化が始まりました。本園の教育目標である「いのちを慈しみ いのちを育む」保育に努め、長年の自然体験による保育実績を活かした信州型自然保育の特化型施設としての教育活動を展開した。

2019年度に行った事業は以下のとおりである。

- 1) 自然保育を活動の中心において、小学校への接続も視野に入れた幼児教育を行った。
- 2) 昨年度に引き続き、つぼみ子育てサロンを幼稚園でも開催し、つぼみ参加者からの新入園児確保に努めた。
- 3) 子育て支援施設、子育て館「野愛(のあ)」を整備した。
- 4) 未就園児対象のオープン DAY を春と秋それぞれ2回、合計4回開催した。
- 5) 園庭及び園庭遊具の整備をした。

### 2. 2019年度の教育における重点目標の達成度

本年度の共育における重点目標を「子どもと親と先生がお互いに対話し、認め合い、柔軟に学び、育ちあう教育(共育)」とした。結果として、この重点目標の達成度は、保護者評価でも教員評価でもB評価(少しあてはまる)となった。

### 3. 2019年度事業の報告

- 1) 自然保育を活動の中心におきながら、小学校への接続も視野に入れた幼児教育を行った。かかし作りや劇作りなどのプロジェクト活動を通して、園児たちは自分の意見を発表したり、他の人の意見を取り入れながら一つの作品を作り上げ、自然の中での活動や体験を小学校教科の音楽・図工・生活などへ繋げました。
- 2) 昨年度に引き続き、つぼみ子育てサロンとオープン DAY(園体験)を春と秋に幼稚園で開催した。また、未就園児の親子が園庭で遊べるように「園庭開放」を行い、市の子育て情報誌等で広報を行った結果、年間で7組の親子が参加しました。これらの事業により、在園児弟妹とつぼみ会員で新入園児数の9割を確保することができ、残り1割を一般の希望者で確保できた。
- 3) 子育て支援施設「子育て館『野愛』」が2月18日に完成引き渡しとなった。整備が遅れたことと感染症対策により、本年度の活動実績はつぼみ子育てサロン1回開催のみとであった。
- 4) 経済不況と共働き世帯への対応は、本園に共働き世帯が少ないことを鑑み、現行の預かり保育の体制を維持継続とした。
- 5) 10月の台風により園庭で倒木や枝折れの被害が出たが、保護者や職員の力添えで片付けと秘密基地などの遊び場が整備できた。

- 6) 当該年度に雇用した常勤の職員が、通常保育時に支援の必要な園児の安全確保と預かり保育を担当することにより、本務教諭が通常の教育活動に集中することができた。
- 7) 前年度に引き続き、非常勤職員(保育補助)が週2日程度送迎バスに添乗することにより、ゆとりのある保育準備をすることができた。

#### 4. 次年度への検討課題

- 1) 近年の傾向として、保護者とのコミュニケーションの確立が困難なことが多く、保護者を理解することが必要な家庭への対応が難しくなっている。保護者の意見を傾聴し、保護者に寄り添って丁寧に対応する関係構築のための体制づくりが必要と考えられる。また、共働き世帯が増える傾向にあるため保護者参加行事の在り方の見直しが必要となっている。
- 2) 苦情対応マニュアルの整備が滞っているため、怪我への詳細な事例マニュアルと併せて整備する必要がある。
- 3) 子育て館「野愛」の活用について企画計画します。また、建物周辺の整備を検討します。
- 4) 飯綱高原スキー場の閉鎖に伴い、年長児のスキー体験など当該地を利用した活動の見直しが必要となる。

### Ⅲ. グリーン・ヒルズ小学校事業報告

#### < 学校教育目標 >

相互の関係性を基盤にして、一人ひとりの自律性を育む

#### 1. 概要

- 1) 自然豊かな飯綱高原の中にある学校として、恵まれた自然環境を最大限に生かした教育を目指し、学びの方法に着目しながら体験活動を通して実践を進めてきた。また、そのための指導のあり方について教師の研修を深めてきた。
- 2) 豊かな自然環境・民主的なコミュニティによる対話を基盤としたプロジェクト、基礎学習、自治活動の3領域を柱とする教育課程を構成し、子どもたちの自律性の伸長を図るための実践を積み重ね、本校教育の質的な向上を目指してきた。
- 3) 少人数学級を前面に出し、一般的な画一的教育では達成されにくい、一人ひとりの個性を伸ばせる学校として、グリーン・ヒルズをさらにアピールし、児童生徒数の増加を目指してきた。

#### 2. 2019年度の活動内容に対する評価

##### 1) 自然体験活動の重視

飯綱高原の豊かな自然と積極的に触れ合う体験活動に積極的に取り組むことができた。大池での野鳥観察、りんご園での学習、畑での栽培活動、スキー学習、飯綱山登山などを通して、自然とのかかわりだけでなく、地域とのつながりや人との関わりなどを進めてく

ることができた。感性豊かな人間性と創造性を備えた子ども、主体的な学びによる探究する力などが育ちつつある。

#### 2) 「プロジェクト」による自律性の育成

りんご園プロジェクトは3年目が終了し、子どもたちによる見通しを持った活動が定着してきている。畑の管理、栽培の手順、生育期の管理、収穫、販売活動など、プロジェクトのねらいや本質に迫る活動を展開する活動により、活動に対する達成感や満足感を得るとともに、探究心や自律性の育成に大きな成果を得ることができた。また、育てるプロジェクト、チャレンジ探検隊物語など、学級独自の活動でも、成果が得られた。

#### 3) 基礎学習の充実

低学年、高学年の2学級編制により、集団学習、個別学習を進めてきた。高学年学級では、3～6学年による編制のため発達段階に差があり、担任の苦勞、負担は大きかった。どうしても個別学習に充てる時間が多くなってしまったが、自律的な学びが進められることにより、学年の目標は達成することができた。指導力の向上に向けてさらに研修を深めていく必要がある。

#### 4) 自治活動の重視

一人ひとりの自律性の育ちを期待して、イニシアチブタイムやスペシャルタイム、グリーン・ヒルズ会議などに取り組んできた。学年を超えた相互の関係が大事にされ、民主的で互いに信頼し合える集団が育ちつつある。

#### 5) 国際社会での発信力の育成

国際化社会に対応した力をつけるために、英語力、英会話を重視し、表現力を高めることができた。電子黒板などの機器整備を進めていく必要がある。

### IV. グリーン・ヒルズ中学校

#### 1. 概要

- 1) 自然豊かな飯綱高原の中にある学校として、恵まれた自然環境を最大限に生かした教育を目指し、学びの方法に着目しながら体験活動を通して実践を進めてきた。また、そのための指導のあり方について教師の研修を深めてきた。
- 2) 豊かな自然環境・民主的なコミュニティによる対話を基盤としたプロジェクト、基礎学習、自治活動の3領域を柱とする教育課程を構成し、子どもたちの自律性の伸長を図るための実践を積み重ね、本校教育の質的な向上を目指してきた。
- 3) 少人数学級を前面に出し、一人ひとりの個性を伸ばせる学校として、グリーン・ヒルズをさらにアピールし、児童生徒数の増加を目指してきた。
- 4) 早い段階からの進路選択を意識した教育活動を進めてきたが、子どもたちの適性に応じた進路指導の充実をさらに進めていくようにしたい。

## 2. 2019年度の活動内容に対する評価＞

### 1) 自然体験活動の重視

飯綱高原の豊かな自然と積極的に触れ合う体験活動に積極的に取り組むことができた。大池での野鳥観察、学校林の手入れと管理活用、畑での栽培活動、スキー学習、飯綱山登山などを通して、自然とのかかわりだけでなく、地域とのつながりや人との関わりなどを進めていくことができた。感性豊かな人間性と創造性を備えた子ども、主体的な学びによる探究する力などが育ちつつある。

### 2) 「プロジェクト」による自律性の育成

畑を活用した栽培プロジェクトに取り組んできた。スタートではスムーズに入れなかったが、活動を通す中で子どもたちの追究が深まり、充実した内容になった。また、北陸金沢方面への旅行を通して中学生らしい学びを深めることができた。浅川公民館をお借りしての学習発表会も自分たちの手で進めることができ、活動に対する達成感や満足感を得るとともに、探究心や自律性の育成につながった。個人プロジェクトでも自己の追究を深める活動となり、成果は大きかった。

### 3) 基礎学習の充実

少人数による個別学習を中心に進めてきた。自律的な学びが進められ、学年の目標は達成することができた。一方で、集団学習に対する教師の指導力向上については、さらに研修を深めていく必要がある。

早い段階からの進路指導に心がけてきた。3年生2名の進路については、当初の目標通りの成果を得ることができたが、さらに充実した内容にしていく必要がある。

### 4) 自治活動の重視

一人ひとりの自律性の育ちを期待して、イニシアチブタイムやスペシャルタイム、グリーン・ヒルズ会議などに取り組んできた。学校を中心となって活動をリードするとともに、学年を超えた相互の関係が大事にされ、民主的で互いに信頼し合える集団に育ってきた。

### 5) 国際社会での発信力の育成

国際化社会に対応した力をつけるために、英語力、英会話を重視し、表現力を高めることができた。講師の丁寧な指導により、英語検定準2級、3級を取得することができた。電子黒板などの機器整備を進めていく必要がある。